

平成30年度第2回小美玉市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成30年11月19日（月）午後2時00分～午後2時45分
- 2 場 所 小美玉市役所 本庁2階 政策会議室
- 3 出席者 (市長及び教育委員会)
島田市長，加瀬教育長，澤島教育委員，中村教育委員，鶴町教育委員，
山口教育委員，柴田教育委員

(事務局)

市長公室長，教育部長，指導室長，秘書政策課長，学校教育課長，
子ども福祉課長，学校教育課長補佐2名，子ども福祉課室長，係長，
秘書政策課係長，主幹

- 4 会議次第 ○あいさつ ・市長あいさつ
・教育長あいさつ
- 協議事項 公立幼稚園の今後の方向性について

5 内 容

○司会（秘書政策課長：以降の表記は「司会」）

皆さんこんにちは。ただいまから平成30年度第2回小美玉市総合教育会議を開会いたします。それでは、はじめに島田市長よりご挨拶申し上げます。

○市長

教育委員の皆さんには、日頃より、子どもたちの教育の充実・発展，健全育成のためにご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

さて、8月に行いました前回の第1回総合教育会議では、「幼児教育の無償化に向けた将来の幼稚園のあり方」をテーマに、10年後を見据えた将来の展望，さらには美野里地区幼稚園の今後について、委員の皆さんからご意見を頂き、美野里地区の幼稚園については「早くに体制をとって方向性を定めていく」というまとめをさせていただきました。

本日の会議においても、「公立幼稚園の今後の方向性」をテーマに、引き続き美野里地区幼稚園の今後について皆さんと意見を重ね、より良い方向性を打ち出してみたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○司会

続きまして、加瀬教育長よりご挨拶をお願いいたします。

○教育長

来年10月から幼児教育の無償化が開始されます。

まだ制度設計が充分整理されていませんが、10月に実施されるということです。

今、茨城県では幼稚園・保育園と小学校の接続のカリキュラムを組んでスムーズに小学校教育がスタートできるように、本市でも様々な組織が作られ勉強しているところがございます。

そうしたなか、美野里地区幼稚園については市長からもありましたように、体制を早く整え、方向性を定めていく段階に来ていますので、率直なご意見を頂いて今後の方針等を決めていただければありがたいと思っています。よろしく申し上げます。

○司会

ありがとうございました。それでは、次第に従いまして3番の協議事項に入らせて頂きます。

小美玉市総合教育会議運営要綱第9条に基づき、議事録は小美玉市ホームページにて公開されますので、あらかじめご了承願います。

議事進行につきましては島田市長の進行となりますので、よろしく願いいたします。

○市長

はい。それでは本日の協議事項、公立幼稚園の今後の方向性につきまして、まず始めに前回会議の振り返りとして担当所管のほうから説明を求めます。

○秘書政策課主幹

はい。それでは、前回の振り返りとしまして、第1回総合教育会議の協議結果につきまして、ご説明させていただきます。資料1をご覧ください。

前回の協議事項としまして、「ICT環境整備について」、「幼児教育の無償化に向けた将来の幼稚園のあり方について」の2点について協議を行いました。

このうち、本日の協議内容にも続いています「幼児教育の無償化に向けた将来の幼稚園のあり方について」の協議内容について説明いたします。

「幼児教育の無償化に向けた将来の幼稚園のあり方について」としまして、1点目として「小美玉市全体を考えた将来の展望」について協議していただきました。

まず始めに、「無償化により民間保育園・認定子ども園の需要が高まる事から、民間保育所へシフトするタイミングと考えています。」という市長の考えにつきまして、委員の皆様のご意見を伺いました。

委員の皆様からは、「公立幼稚園の役割として一貫教育としての存在意義がある。」「合理化すべき点は実施し、一方で幼稚園のあり方も考えなくてはいけない。」「公立幼稚園を無くすのは問題と思う、慎重に考えるべき。」「公立幼稚園の教育のあり方について様々な意見を聞いて判断するべき。」などのご意見をいただきました。

協議のまとめとしまして、『無償化に伴う入園状況を見ながら判断することが必要であり、国が進めている「幼稚園」「保育園」「認定子ども園」一本化施策の動向を見極めた上での判断も必要であるため、引き続き協議を進めていく。』というまとめとなっています。

次に、「美野里地区の幼稚園の今後」について委員の皆様からご意見を伺いました。

意見としまして、「美野里地区は遅かれ早かれ閉園の方向と思う。」「新しい施設を作るのではなく、堅倉に集約。」「園バスなどの手配ができるかで集約先も決まると思う。」「既存の施設を活かしながら美野里地区で集約。」などの意見を頂きました。

まとめとしまして、『頂いた意見を選択肢の一つとして捉え、体制を早く整え、方向性を定めていく。』として前回の会議を終了しています。

○市長

ただいま、事務局より前回会議の結果について説明がありました。

前回の皆様のご意見を踏まえ、私も幼児教育・保育の現状について確認し、熟慮したところでございます。

最初に、私から考えを述べさせていただきます。

来年10月から、無償化によって預かり保育がある民間保育園や認定子ども園の需要が高まることが予想されることから、他の園で補完が可能となった公立幼稚園から順次「整理」し、最終的には元気っ子幼稚園に集約するのがよいと考えておりました。

元気っ子幼稚園に集約するにあたっては、特に、竹原幼稚園のように休園となり、また民間保育園が多くある美野里地区において、4つの公立幼稚園を整理していくにあたり、受け皿となる認定子ども園などの民間保育の受入れ体制が充分であることが絶対条件であると考えました。

しかし、現状では民間保育所の保育可能な人数が確保できない状況であるため、民間保育の受け皿確保に向けた準備は進めながらも、美野里地区において拠点となる公立幼稚園を設け、小川・美野里・玉里それぞれの地区で公立幼稚園を設ける形もあるのではないかと感じているところでございます。

もちろん、美野里地区に新しい園舎を建てたり、大規模な修繕などはせず、園バスの運用において、支援を必要とする子ども達を受入れ、さらには小学校と連携を図ることで特色ある幼児教育ができればと考えています。

これにつきまして、委員の皆さんの見解を伺いたいと思います。

いかがでしょうか。

●澤島委員

美野里地区で1箇所を集約するというところで、現状を考えると、全く無くすというよりも、機能している幼稚園も一部あるため、保護者の方など理解が得られると思います。

それと同時に、どのように運営していくのか、小美玉市の3地区の幼稚園として共通的に公平公正な運営ができれば市民や保護者も納得いくと考えますので、その辺の対応をお願いしたいと思います。

●中村委員

長いスパンで考えれば、園児数は減少する傾向ですので、美野里地区で幼稚園を集約するというのはそのとおりだと思います。

美野里地区に1箇所幼稚園があるということは、旧小川町、旧玉里村との公平性も保たれます。

ただ、その1箇所をどういう形で作って運営していくか、地元や保護者たちの集約する考え方なり意見をクリアできるか。

例えば、堅倉幼稚園や納場幼稚園に集約した場合、地元や保護者の方は小川地区や玉里地区と比較して考えると思いますので、納得いく説明が可能かどうか心配する点です。

無償化が5年、10年と続くのかどうか、これが変化してくればまた幼稚園に対する考え方も見直しが必要になると考えます。

美野里地区で1箇所を集約というのは賛成です。ただし、地元の人たちに納得いく説明が出来るよう整えておかなければならないと思います。

●山口委員

前回も小川・玉里地区に幼稚園があつて、美野里地区でも残したほうがよいという意見も出たと思います。

中村委員が言うように集約の理由というか、現実には人が少なくなっている納場幼稚園のような実態があるわけですから、集約やむなしという気がします。

あとは、もう少し踏み込んで幼稚園を美野里地区でやっていきたいと思いますとなれば預かり保育は必須条件だと思いますし、そのような展開をしていけば幼稚園のニーズや期待もあると思います。

●柴田委員

やはり公平性という点では、美野里地区にも公立の園を残しておく必要がありますし、集約もやむなしと考えます。

子供を預かる条件面に関しては、他の地区と公平になるようにしなければいけませんし、預かり保育は検討しなければならないと思います。

●鶴町委員

美野里地区の公立幼稚園を無くすというのは公平性から見てもおかしいと言われる可能性もあると思います。

1箇所に集約して幼児教育を進めるのであれば、統合して良かったと言われる作り方が必要な気がします。

小川にしても玉里にしてもバスを運用しているのが現状で、預かり保育もやっている、そういうことを考えると、美野里地区でも元気っ子・玉里幼稚園と同様の幼稚園を作る必要があると思います。

また、4園が1つになれば職員の体制も決め細かく作れて、園児が1つに集まれば先生も今より多く配置できると思いますし、自分の休暇・用事があるときに代わりに見てもらう先生がいるという状況ができ、今よりいい条件になるのかなという気がします。

○市長

貴重なご意見ありがとうございました。

私のほうから意見をまとめた話をさせていただきたいと思います。

美野里地区においては、少子化や施設の維持費の問題もあるわけでございます。

さらに、現状の4園から縮小も止むを得ないという皆さんの意見もわかりました。

それにはやはり、特色をもって1つにした理由がきちんとしてないと理解されないのではないかという話、さらには、統一することによって職員の体制が良くなれば安心して預けてくれる、ご理解いただけるのではないかという意見もありました。

これらを受けて、美野里地区の拠点となる幼稚園の場所については、施設の状況、さらには地区のバランスを考慮しながら判断しなくてはいけないですし、バスの送迎や施設の整備などもしっかり取り組まなければいけない、解決しなくてはいけない課題として整理し、準備を進めていくことが大事だと判断したところでございます。

また、預かり保育につきましては、玉里も元気っ子も体制が整っていますので、バランスという意味でもきちんと整理し、特色ある幼児教育ができるよう、民間と話し合いを詰めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に、私の心配事としまして、民間保育園や認定子ども園に通う子ども達が卒園し、小学校での集団生活にスムーズに移行するための取り組みがこれまで不十分であったかと思っています。

そこで、民間の幼稚園、保育園と小学校の更なる連携の充実が今後必要であり、教育分野における地域の特色にもなると思います。

現在の小・保・幼の連携はどうなっているのか、また、その対策について事務局に伺います。

○指導室長

現在、いばらき教育プランの中にも幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図ることを狙いとして、県の就学前教育、家庭教育推進室の事業が立ち上がっています。

平成30年度は「幼児期の子供の育ちと学び接続事業」があり、これを受けて本市でも指導室の教育相談員1名を幼児教育アドバイザーとして、県の研修会に出席したり、保幼小の連携・接続に向けて中心的な役割を担っていただいています。

また、各小学校においても、保幼小接続コーディネーターが各小学校に1名おり、各幼児教育施設にも幼児教育施設園内リーダーが園に1名以上おり、連携、接続に向けて中心的な役割を担っています。

市では、9月6日に幼児教育と小学校教育の接続のための研修会を開催いたしました。

保育園は11園、幼稚園は6園の園内リーダーが参加し、小学校は12の小学校の接続コーディネーター等が参加しました。

全体の研修と、小川地区を2つ、美野里地区を3つ、玉里地区を1つに分け、幼稚園側からは小学校に向けてのアプローチカリキュラムについての説明、小学校側からはスター

トカリキュラム（1年生の夏休みに入るころまで）の説明をするなど、互いのカリキュラムの共有を図り、顔の見える関係づくりになっていると思います。

また、子どもの育ちと学びの共有として、1年生担任が公開保育に参観したり、小学校の公開授業に保育に支障が出ない範囲で見に来たりしています。

具体的には、6月22日に太陽保育園、四季の杜保育園の先生が堅倉小学校の1年生の授業を見に来て話し合いを持ってあります。

また、8月8日には小学校の先生が保育参観をし、保幼小の合同研修を行っています。

ただし、保育園の先生に集まっていたくときには課題が1つあり、保育園は夏休み期間でもお盆以外は保育を実施しているため、研修当日は保育園児の引渡し訓練として、園児を降園させての合同研修会になりました。

このような課題もありますが、各小学校では校長のリーダーシップのもと連携、接続に向けた話し合いやカリキュラムの共有が行われています。

また、入学説明会の折には幼稚園児と1年生の交流や、お祭りへの招待が引き続き行われています。

いずれにしましても、幼児にとって学びの連続になるように幼児教育アドバイザーを中心に進めているところでございます。

○市長

事務局から小学校と保育園、幼稚園の連携について説明がありました。

この件について皆さんのご意見がありましたら、お伺いしたいと思います。

●澤島委員

一番良いのは直接子どもたちの交流ができること。

まずは、指導する方達のお互いの対応を知ることということで、預かるにあたって、これからどう向かっていくか分かるので、手順としては良い事と思います。

先ほどの説明で課題としてありました保育園の保育ができるだけ継続して行えるように進めていただきたいと思います。

●中村委員

本市は統廃合を進め、小中一貫教育を打ち出していますので、当然幼稚園からの接続は大事なことから、幼小中一貫教育という考え方に立つ必要があると思います。

アドバイザー、コーディネーターなどを中心に連携を図っているわけですが、1つ付け加えるとすれば、何のために公立の幼稚園があるのか、まず小学校と幼稚園の連携に公立が深く関わり、基本的な考え方を作り上げ、それを私立の幼稚園に反映させる。

公立の幼稚園がリーダー的役割を果たすことで、幼小中の一連の教育の流れができて、それが本市の教育の特徴にもなると思います。

公立幼稚園のリーダー的役割を作るべきだと思います。

●山口委員

幼稚園に行くと子ども達が一人一人特徴があり、それを小学校の先生等に伝え、引継ぎがスムーズになれば、小学校に入ってからの子どもの教育の為にもなると思います。

●柴田委員

公立の幼稚園は今までも小学校と交流をしてきて、接続もスムーズだと思いますが、民間からの接続に力を入れ、公立と私立で差があるようであれば、どう差を埋めていくか、お互いに良いところを取り入れながら進めていただければと思います。

●鶴町委員

説明された内容について、強力に進めて、保幼小中の連携を深めていただきたいと思います。

○市長

ありがとうございました。皆さんから貴重なご意見をいただきました。

これからの取組として非常に重要であり、指導室からも、これに向けて勉強会などに取り組んでいくという説明もありましたので、幼稚園・保育園・小学校、また、加えて中学校との連携については今後も勉強を重ねて、総合教育会議でも意見を交えていきたいと思いをします。

また、先ほど議論いただいた、美野里地区の4園についてですが、美野里地区に拠点となる園を設け、ここに集約するとして、さらに、特色をもってという考えにも充分配慮して、時期については園児数の推移など状況をよく考慮し判断しなくてはいけないと思いますし、また、送迎バスや施設などの条件整備などもしっかりとしなくてはいけないと思いますし、そういう準備を進めてまいりたいと考えています。

その他としまして、委員の皆さんから何かありますでしょうか。

●鶴町委員

例年のとおり園児は募集していますか？

○学校教育課長

公立の幼稚園は、美野里地区に関しては4つの園で募集しています。

●鶴町委員

1つに集約する時期はいつ頃になりますか？

○市長

集約の時間・時期については慎重に見なくてはなりません。

●鶴町委員

即、来年からということではなくて。

○教育部長

市長の言われたとおり、時期については園児の推移を見てということですか。

●鶴町委員

今までどおり園児を募集して、竹原の申込みが少なかった場合には休園していくしかないということか。

○市長

それと平行して、私立が1号認定の受け皿をきちんと作っていただく方法も必要です。時間をとり、皆さんと議論しながら進めていきたいと考えます。
納場の現在の園児数は？

○学校教育課課長補佐

4歳児7人、5歳児7人の14人です。

○市長

堅倉と羽鳥は？

○学校教育課課長補佐

堅倉は4歳児11人，5歳児12人で23人。

羽鳥は4歳児17人，5歳児13人で30人です。

●中村委員

幼稚園の教育目的からいえば，多くの人と接するなかで情緒的，それから色々な問題の基礎を作るということになると，少人数ではなくある程度のキャパは必要。

羽鳥が多いという地区のアンバランスがあっても，美野里地区で集約して教育の土壌を作る必要があると思います。

○市長

大変貴重なご意見をいただいた今日の会議となりました。

以上で進行を事務局に戻します。

○司会

第1回，第2回に渡り慎重なご協議，ありがとうございました。

美野里地区の幼稚園につきましては，皆さんの協議にありましており，ある程度の一定の方向性が見出せたと思います。

また，幼保小中の連携を小美玉市のひとつの特徴としていこう，という新たな課題も出てきたことかと思えます。

引き続き，総合教育会議を意義ある会とさせていただきまして，皆さま方と色々な協議を進めていければと考えておりますので，今後ともよろしく願いいたします。

以上で第2回総合教育会議を終了いたします。